

「楽しい&エコ」な暮らし、いっしょにはじめましょ♪



季刊

エコびと

第10号 2013.5月

特 集

「マイナス6%」は、どうなった？

～京都議定書第一約束期間が終わって～

会員突撃インタビュー（宇井妥江さん）

とよたのまちネタ紹介（松平交流館前のヤドリギ）

このミニ冊子は持続可能で豊かな地域社会（エコライフとよた）の実現を目指す
NPO 法人とよたエコ人プロジェクトが発行しています

特集：「マイナス6%」は、どうなった？

今年の3月末で京都議定書第一約束期間（2008～2012 年度）が終了しました。その結果がどうであったのか、環境省他から示されている中間見通しや速報値などをもとに、概要を調べました。

どうやら、日本は温室効果ガス（GHG：Green House Gases）の排出量の削減目標「基準年度（1990）比マイナス6%」を達成したようです。と言っても、実際の排出量を6%減らせたわけではありません。「実際の排出量」は、5年間平均でプラス 2.0%。それなのにマイナス6%達成とはどういうことでしょうか。

京都議定書では、実際の排出量を減らすことのほかに、京都メカニズムという「GHGの排出権のやりとり」が認められています。つまり、お金を払って、大幅な削減に成功した国から「削減量」をクレジットとして購入したり（排出量取引）、中国などの発展途上国に技術支援をしてGHGの排出増加を防ぐ開発に協力した分（クリーン開発メカニズム）を「削減量」として算入できる仕組みがあるのです。

日本は、政府と民間（電力業界・鉄鋼業界）がこの仕組みを使って、それぞれ約1億トン、2億8600万トンの排出権を購入したようです。それぞれを5年間平均に直すと1.6%、4.5%分に相当します。政府分で見ると、購入単価は1トン当たり約1,500円。つまり約1億トンの購入に1,500億円のお金を出しました。電力会社の購入単価はわかりませんが、同様に巨額を支出したと思われます。

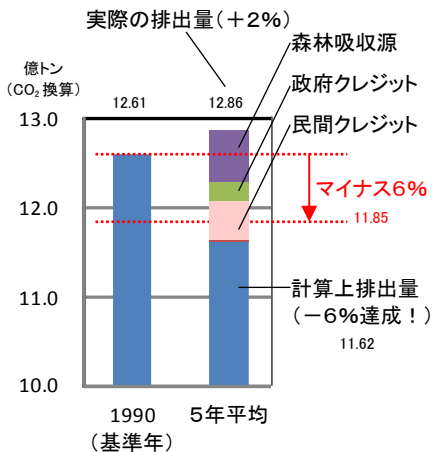


図1. GHG 排出削減の達成状況

それからもう一つ、「森林吸収源」というものがあります。これは、「きちんと管理・手入れがなされた森林は CO₂ の吸収源として機能する」という考え方です。日本でも人工林の間伐などに取り組み、これをマイナス 3.8%分に相当する、として算入しています。

続いて、年度ごとの「実際の排出量」の変化を見てみましょう。

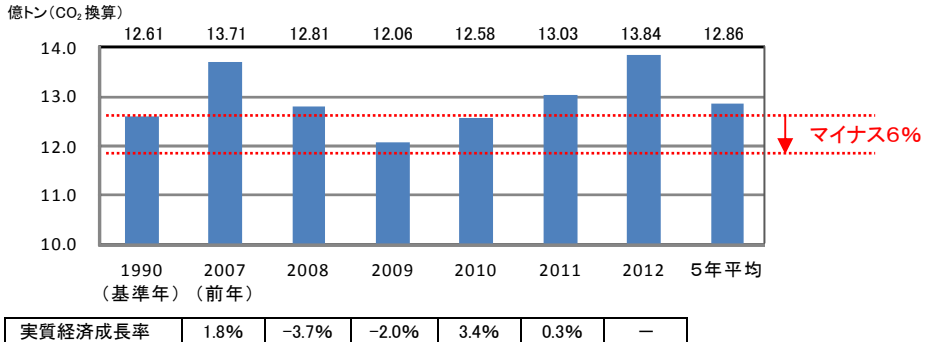


図2. GHG の年度別実排出量

まず、約束期間の前年、2007 年度には排出量が基準年比プラス 8.7%となり、この時点では「マイナス6%」の達成は不可能、あるいは膨大なお金の支出を伴う、といった予想がなされました。その後、2008 年9月にリーマンショックが起きて、世界的な不況に陥りました。日本も例外ではなく、経済成長がマイナスになり、工場の稼働時間が減ったりして、2008～2009 年度には GHG の排出量は削減しました。続く 2010 年度には景気が好転し、今度は GHG の排出量が上昇に転じました。

そして、2011 年3月、東日本大震災が発生しました。経済的に大きな打撃を受けた他、福島第一原子力発電所で重大事故が起こり、全国 54 基の原子力発電所がほぼ全て停止しました。これを受けて化石燃料による発電量が増えたために、「景気が悪化すると GHG が減る」という常識とは異なり、逆に GHG が増えるという事態になりま

した。ただし、これは短期的に見た場合で、再生可能エネルギーの普及に向けて日本もようやく本腰を入れ始めたため、今後は景気が好転しても GHG が減るとい社会状況が期待できるかもしれません。

京都議定書の成果と今後の見通しについては、さまざまな見解があり、いくつかを紹介します。あなたはどのように思いますか。

- ・結局のところ、「不景気、海外でのモノの生産、原発」の3つが一番の排出量の削減になることが明白になった。これこそ、「不都合な真実」だ。
- ・世界全体では大幅に GHG の排出が増える結果となり、京都議定書は効果が無かった。
- ・京都議定書がなかったら、もっと排出量が増えていただろうから、効果はあったと思う。
- ・少なくとも、節電意識を持ったり(原発事故の影響も大きい)、エコ商品を選ぶ消費者が増えたから、意味のあることだった。
- ・そもそもの始めから、京都議定書は日本に巨額の拠出を迫るための巧妙な手口として利用されただけではないか。
- ・アメリカはシェールガス革命で、今後、排出量が増えるだろう。中国やインドなどを中心に、世界全体での排出量も増え続けるだろう。
- ・第二約束期間に参加しないことになった日本は、京都議定書の議長国として恥ずかしい限りだ。
- ・既にエネルギー効率の高い日本が、第二約束期間への不参加により自主的な努力を選んだのは賢明な判断だ。
- ・日本では節電や再生可能エネルギー普及の潮流がしばらく続くだろう。人口も減少に転じた。今後は排出量を減らしていけるのではないか。

以上、インターネットの情報を要約

どんなに家電や自動車などが低燃費になろうとも、あるいは再生可能エネルギーの普及が進もうとも、購入する商品が増え、使用時間が増え続ける限り、エネルギー消費量（GHG 排出量）の大幅削減は期待できないように思います。日々のくらしや社会の仕組みをどう変えていくのか、見つめ直す時機が来ていると思います。（小泉達也）

●主な活動記録一覧（2/1～4/30）

2月

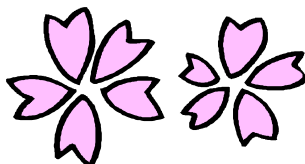
- 6日 市職員研修「市民活動を知る」バスツアー 受入
- 8日 eco-T 運営会議
- 9日 とよたこどもエコクラブ交流発表会
- 11日 「とよたでESDを学ぼう！」開催
- 16日 低炭素杯 2013 ファイナリスト発表（さんしゅうECO 倶楽部）
- 17日 eco-T 市民会議
- 17日 いなかとまちの文化祭（実行委員会事務局）
- 22日 インタープリター&スタッフ研修
（とよたエコフルタウン、豊田PCB廃棄物処理施設 視察）

3月

- 2日 京都・環境教育ミーティング（龍谷大学深草キャンパス）参加
- 8日 eco-T 運営会議
- 15日 第44回（2012年度8回）理事会
- 15日 第45回（2012年度9回）理事会
- 18日 「ごみの発生抑制」に関する市民活動団体と行政との意見交換会
- 22日 インタープリター&スタッフ研修
（トヨタの森のインタープリテーション体験）
- 28日 豊田市の環境学習施設視察コーディネート
- 28日 市民活動初級講座「市民も担う新しいまちづくり」参加

4月

- 4日 eco-T25年度事業計画説明会（5日も）
- 12日 eco-T 運営会議
- 19日 第46回（2012年度10回）理事会



eco-T は、環境学習の中心であってほしい

会員突撃インタビュー（第9回）



今回のゲストは宇井妥江さん^{やすえ}。現在は、中山小学校の教員をなさっています。eco-T のオープン当初から、ハンドベルグループ「チアーズ」やくらしの環境学習推進校として協力いただくなど、多くの場面でお世話になっています。

Q. はじめに、趣味はなんですか

A. ハンドベルアンサンブル（以下：ベル）のチアーズと畑です。ベルは昨年 8 月に 10 周年コンサートを開催しました。始めたきっかけは、石畳小学校の教員時代のクラブ活動。「卒業してからもベルをしたい」という子どもたちの声に押されてチアーズを立ち上げました。今では一番上の子が 25 歳になります。もう一つの趣味の畑を始めたきっかけは、子どもたちに学級園で野菜の育て方をきちんと伝えるためです。作物の育て方がわからなくて、一昨年、小峯町で有機野菜づくりを教えていらっしゃる成瀬先生の講座を受けました。成瀬先生の講座は人気があり、最初は回数限定の「聴講生」だったのですが、裸足で田んぼに入ったところ先生から「女性でこんなにやる気のある人は初めてだ」と認められて正式な「受講生」となり、最後には修了証までいただきました。その後、同講座の卒業生の方から声をかけていただいて、畑を借りて野菜を育てています。ベルはおいしい次の世代にバトンタッチしていく予定ですが、畑は一生の趣味になりそうです。

Q. 最近、心に響いたことや感動したことを教えてください。

A. やはり、成瀬先生とのご縁です。人のご縁は大切ですね。畑を勉強しようと行動したことがご縁につながりました。また、ベルによって eco-T や他のいろいろな方々と縁をつなぐことができました。ベ

ルをやってなかったから、おそらくここまで eco-T と関わることはなかったと思います。積極的に行動すると、それまで関わりのなかった人との出会いがあり、ありがたいことに、その方々からいろいろ影響を受けています。

Q. ほっと一息つける場所は？

A. いつでも一息ついていきます。何かと活動はしていますが、自分の中で「頑張っている！」という意識はないです。教員とベルと畑、それぞれで別の自分になれる。その切り替えのおかげで、いつも自然体でいられます。ハンドベルを磨いたり、土いじりをしている時間は無心になり、本当に落ち着きます。それから、大事にしていることは「一度決めたら、優先順位を変えない」ことです。

Q. eco-T やエコ人に一言お願いします。

A. eco-T には、環境学習の中心であってほしい。教員は「なんでも自分でやらなきゃ」と考える人が多くて、誰かに頼ることが苦手です。ぜひ、環境政策課や eco-T がうまくバックアップしてほしいです。eco-T には、くらしの環境学習推進事業実施後の授業のモデルプランをつくってもらいたい。総合学習は、教員が企画から全てを一人でやっています。モデルプランがあると、教員も取り組みやすいと思います。それから、「環境学習＝自然共生」と考える教員が多いのは残念です。私は「くらしの中にこそエコがある。みんなが気持ちよくくらしることがエコだ」と思っています。だから環境学習のチャンスは、いつでもどこにでもある。eco-T を利用して、様々なネタを仕入れてやってみせて、若い人たちが引き継いでくれるようにしたいと思っています。私も eco-T の宣伝部長として頑張ります！

(会員突撃チーム：岩月桂子・水野雄介・小泉達也)

学校や教育についての宇井さんの熱い思いに圧倒されました。学校での総合学習や環境学習のあり方、若い教員のみなさんへのメッセージ、そして、「エコとは何か」についても教えられたように思いました。宇井さんのような教員のサポートと、意欲ある教員が豊田市に増えていくような活動をぜひ進めていきたい、と強く思ったインタビューでした。

松平交流館近くの「ヤドリギ群落」

とよたのまちネタ紹介 第9回

今回のまちネタは“初”植物編です。みなさん、ヤドリギという木を知っていますか？ 私は学生の頃に見て以来、なんとなくこの木のファンです。とくに晩秋から春にかけて、落葉樹の枝の中にこんもりとした丸い緑の玉がある姿には、どこか魅かれるものがあります。



松平交流館近くの巴川の両岸には、ヤドリギの一大群落があります。ヤドリギは半寄生植物で、宿主の落葉樹（サクラ、エノキなど）の組織から水分と養分を頂戴して、自分の葉っぱで光合成をして育ちます。大きなものになると、直径1mを越える緑の玉になります。西欧では、その神秘的な姿（？）からか、クリスマスのときにヒイラギとともに飾られるそうです。葉っぱはプロペラ状で、2～3月に花が咲き、11～12月に直径5～6mmの半透明の実をたくさんつけます。

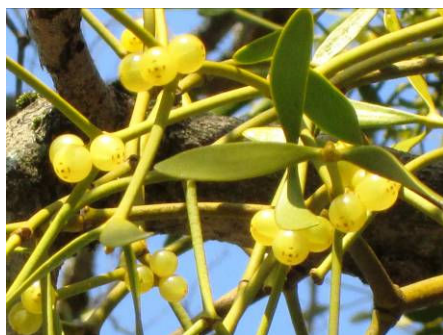
ヤドリギと切っても切れない関係にあるのが、緋連雀・黄連雀（ヒレンジャク・キレンジャク）という渡り鳥です。この関係は、日本では平安時代の頃には既に知られていたそうです。ムクドリより少し小さくて、ちょっと太めですが、とって“イケメン（イケ鳥）”で、バードウォッチャーにも人気のある鳥です。尾の先端の色が赤なら

“ヒ”、黄色なら“キ”と見分けがつくそうです。私はこの春、初めてお目にかかりました。このヤドリギの写真を撮りに行った際、たまたま遭遇したバードウォッチャーの方に教えていただいて、写真に収めることもできました。日本には越冬のためにやってきて、ヤドリギなどの木の実を食べます。ヤドリギの実の中には粘りつく種子が入っていて、鳥が糞をした際にこのねばねばが木にくっついて、増えていきます。



ヒレンジャクは西日本で、キレンジャクは東日本で比較的多くみられるようですが、年によって渡って来る数の変動が大きく、ほとんど観測できない年もあるそうです。また、繁殖地であるシベリア東部・中国北東部の開発等で生息数が大幅に減っているという報告もあります。もし、ほぼ絶滅ということになったら、ヤドリギはどうなってしまふのでしょうか。運命共同体として絶滅への道をたどるのか、それとも他の鳥が役割を果たすことになるのか。自然界はいろいろなものがつながっていて、どんな結果が起こるか予測が付きません。

なんだか不思議な雰囲気を持つ、ヤドリギ。この木に興味を持って少し調べてみたことで、関連するいろいろなことがわかりました。これぞ『大人の自由研究』。みなさんもぜひ、興味を持った物事を調べて、文章にして、この季刊誌に投稿してくださいね。いつでも大歓迎です♪（小泉達也）



eco-T の平成 24 年度をふりかえる

23年度から24年度にかけては、eco-T の利用休止期間がありました。1年半のブランクが明けた6月1日には、事務所受付に施設利用の予約の順番を待つ団体の姿があり、うれしいスタートを切りました。また、2日後に行ったエコットフェスタでは、体験ブースやフリーマーケット、スタンプラリーなどで楽しむ親子連れが多く訪れ、一安心しました。

10月3日には、開館6年目にして、来館者累計10万人を達成。セレモニーを開催し、10万人目の来館者となった地元、寿恵野小学校4年生の児童たちに記念品を授与しました。

また、同時期にはリユース工場のオープンもあり、eco-T の存在を知っていただく機会が増えたり、着ぐるみキャラクター「ポイSTOPくん」の活用、eco グリーン堆肥の市民配付など、清掃事業部との連携強化が進み、ごみ減量啓発のバリエーションが広がっています。

一方、eco-T のメインコーナーである展示室には、展示学習プログラムが多数あるものの、来館者に20～30分立ち止まってもらうためにはインタープリテーションのハードルが高く、あまり体験の場面が見られませんでした。開館から6年経ち、当初想定していた来館



者の年齢や目的などがずれているのであれば、展示更新を毎年続けるだけでは限界があります。ふらっと来館した人に、展示室に一步踏み入れてもらうためのしかけや、インタープリターの誘導にも知恵を出し合う時期です。世話人会では、問題意識を共有するところから始めよう、との声が出ています。

伝える人を増やすための育成講座（7期生、ジュニアインタープリター）の受講生の募集には苦労しました。修了後には活動者となる、という目的の連続講座には気軽な参加はできないものの、少人数でも「周りに伝えたい」という意識の市民を毎年増やし続けていくことはeco-Tの大きな使命の一つであり、ぜひ続けていくことが大切と考えます。

eco-Tで活躍した市民が地域に戻って、地元でエコライフを広げる役割も見えてきました。eco-Tの開館初期を支えた第1期生の活動は6年経ち、地域で活躍するモデルとなることが望めます。または、後輩のよき相談役、eco-Tを語る市民という立場といった新たな役割を担うことが必要だと思えます。

最後に、今年度は事務局体制の変更（統括責任者の交替）がありました。これまでの経験やノウハウを使い、日々の業務は滞りなく行うことができましたが、市民参画、共働の推進といった部分では、「どこまで利用者や活動者の意見を聞けばいいのか」や「いい、わるい」の判断基準に市民目線を持ちつつ、要望や意見や指摘の声に、日々、線引きを事務局で決めていくことへの葛藤や心の負担がありました。

わたしたちがつくるわたしたちの施設であるeco-Tの運営を通して、関わった市民すべてが、より地域のことに主体的になれる場を提供し続けていくことの使命を感じた1年でした。（松浦貴子）

新規会員募集中！ 現在の会員数は、67名・2団体です

一緒に、楽しい&エコなくらし・活動を始めてみませんか。
入会は随時、受付中です。

★新規入会のみなさま（賛助会員）
福本将さん、宇井妥江さん

| | |
|---------|----------------|
| 正会員 | 10,000円（議決権あり） |
| 賛助会員 一般 | 1,000円/□ |
| 学生 | 500円/□ |
| 営利団体 | 10,000円/□ |
| 非営利団体 | 3,000円/□ |

●おすすめイベントの紹介&参加者募集

| 日時 | 内容など |
|-------------------------|---|
| 6月2日（日） 9:30~15:00 | <p>eco-T 開館6周年記念イベント エコットフェスタ 2013</p> <p>●場所：豊田市環境学習施設 eco-T ●内容：楽しい催し盛りだくさん。今年のテーマは「リユース」です♪</p> <p>★詳細はチラシをご覧ください♪</p> |
| 8月25日（日） 10:00~12:00 | <p>とよたエコ人プロジェクト 第5回総会</p> <p>●場所：豊田産業文化センター 41 会議室</p> <p>★詳細は追ってご案内します</p> |

編集後記 今号の特集は「マイナス6%」の達成見込みについて。予想はしていましたが、残念ながらテレビや新聞等で、このテーマについて取り上げたところはほとんど見つけれませんでした。だからこそ、こうして私たちがスポットを当て続けていく意味があると思います。（小泉た）

発行・編集 ^{ひと}NPO 法人 とよたエコ人プロジェクト

TEL 0565-50-5684

FAX 0565-50-5568

メール info@t-ecobito.jp

URL <http://t-ecobito.jimdo.com/> ←活動ブログも、理事ブログも♪

〒471-0025 愛知県豊田市西町 1-88 カニックビル5階

私たちは豊田市から委託を受けて、環境学習施設 eco-T（エコット）を運営しています